

富島ろ

【第277号】

発行 R6. 3. 1
東海市立富木島小学校
TEL 052-601-5311
ホームページ



自分以外のために時間を使う美しさ

～ボランティア隊による募金活動～

1月中旬から始まった『やってもやらなくてもいいボランティア隊』の募金活動も、2月16日の4年生学習発表会をもって終了となりました。校内及び校外募金活動の総額は、なんと400,427円でした。集めた募金は、中日新聞者会事業団事務局を介して、石川県に送られます。約1か月間に渡り、募金活動に参加してくれた人、募金をしてくれた人に対して、あらためて感謝します。きっと私たちの気持ちが石川県の人たちに届くことでしょう。さて、この活動を通して痛感したことが2つあります。

1つ目は、タイトルにもあるように、『自分以外の人のために自分の時間を使う美しさ』をボランティア隊から学びました。ともすると、ゲームがしたい。友だちと遊びたい。自分の趣味の時間にしたい。など、自分の時間ですから、当然自分のために使うことは決していけないことではありません。しかし、そういう気持ちがありながらも、『誰かのために時間を使う』という選択は、とても美しいと私は思います。本校の教育理念にもある『共生』を体現した子どもたちの姿に感動を覚えるとともに、一人の人間としてのたくましさを感じました。

2つ目は、子どもは地域の宝物です。本校の地域連携のキャッチフレーズに『子どもは、家庭が育て、学校が鍛え、地域で磨く』とあります。学校内でしか見えない狭い世界観ではなく、校外で募金活動をすることによって、社会の厳しさや温かみに触れる貴重な体験ができたことを確認しています。そこには、募金活動をする小学生に対して、地域の方々が温かみのある声かけと協力があり、子どもたちの充足感や達成感を創出したと感じています。子どもたちの頑張りを他人事ではなく、自分事として捉え、地域の方々が子どもたちを磨いてくれたのだと痛感しました。本当にありがとうございました。

太田川駅での募金活動の様子が**知多メディアス**で紹介されました！



能登半島地震支援第2弾！ 応援幕づくりが中日新聞に掲載されました！

「負けるな」「一緒」能登に思いを

東海の富木島小
応援幕作り送る

能登半島地震の被災者を励ますと、東海市富木島小学校の有志の児童が、被災地に心を寄せるメッセージを書いた応援幕を作った。近く石川県庁に送る。同校では校内外で児童が主体となって募金活動をしており、集めた寄付金はすでに被災地へ送っている。

応援幕は支援の第2弾。13日から1週間かけて、縦140センチ、横350センチの布製の幕に、児童が思い思いのメッセージを書き込んだ。中心になった5年生の柿本美結さん(11)は「能登半島の皆さんに元気や思いを届けられるように書きました。今後も震災があったら、同じように書きたい」と話した。5年生の大島歩夏さん(11)は「苦しい思いをしている方々や友だちを元気づけようと思いました。思いが届けばうれしい」と語った。(高橋貴仁)

児童たちが作った応援幕



応援幕を掲げる有志の児童たち＝いずれも東海市富木島小

『子どもは家庭が育て、学校が鍛え、地域で磨く』

先日、手代ヶ丘町内会代表の谷口さんから温かみのある情報をいただきました。話の概要は以下のとおりでした。

ファミリーマート前の横断歩道や日鐵の社宅前の横断歩道を渡ろうとしたとき、小学生が、「荷物を持ちましょうか。何か手伝いましょうか。」と声をかけてくれたそうです。地域の女性が私に話をしてくれました。このことをぜひ、小学校にも伝えてほしい。とのことでした。

いくらこころ温まる出来事があっても、その人の中で完結していたら、私たちは、子どもたちを褒め、自信をもたせる営みができずに時は過ぎ去っていきます。

今回、このような出来事から小学生の温かみをご自身が感じるだけにとどまらず、『伝える』という行動に移してくれた谷口さんと地域の女性に対して感謝するとともに、あらためて学校は、地域に支えられ、子どもは、地域で磨かれていると痛感しました。

このような『温かみのある情報提供』は、子どもたちの成長にとっては、欠かせない**栄養素**だと考えます。そんな素敵な情報をこれからもどんどんお待ちしております。情報提供、本当にありがとうございました。